

公益財団法人 日本中毒情報センター 保健師・薬剤師・看護師向け中毒情報

コプリン群(ヒトヨタケ、ホテイシメジ他)

1. 概要

ヒトヨタケなどコプリン群のきのこ 8) による中毒は、きのこを食べる前後にアルコールを摂取した場合にのみ発症する。日本ではこれらのきのこの中毒の発生件数は少ないが、食用きのこなので飲酒に注意が必要である。

2. 毒性

きのこ自体は食べても中毒を起こさないが、アルコール飲料とともに摂取した場合や、きのこを食べたあとでアルコール飲料を飲んだ場合に二日酔いと同じ症状が出現する。

8)

3. 症状

1)2)3)4)5)

通常、きのこを食べてから 3~24 時間後(あるいは 4~5 日後)にアルコールを摂取した場合、またはアルコール摂取後にきのこを摂取すると中毒症状が発現する。摂取後 30 分~2 時間でジスルフィラム(アンタビュース)様作用の症状が認められる。通常、症状は 4 時間以内に回復する 2)。

循環器系：顔面紅潮、頸静脈怒張、動悸、頻脈、胸痛、血圧低下、不整脈

呼吸器系：昏睡による無呼吸

神経系：頭痛、感覚異常、発汗、脱力感、めまい、昏迷、昏睡

消化器系：金属味、悪心、嘔吐、激しい嘔吐による食道粘膜の損傷(マロリーワイス症候群)

その他：脱水、電解質バランスの異常など

4. 処置

1)2)3)4)5)

家庭で可能な処置

催吐(ただし、乳幼児の場合、吐物を気管内に吸い込むことがあり、注意が必要)

医療機関での処置

通常、症状は 4 時間以内に回復する場合が多いので、ジスルフィラム(アンタビュース)様作用の対症的処置を行い、経過を観察する

催吐、胃洗浄(経過時間と嘔吐の程度により必要に応じて施行する)

活性炭・下剤の投与(有効性は証明されていない) 4)

対症療法

頻脈を伴う不整脈：プロプラノロール 10~15 mg を 6 時間毎に経口投与

重症の場合にはプロプラノロール 0.5~2.0 mg を静注

血圧低下：ドパミン 1 mg/mL ブドウ糖液を 5 μg/kg/分の速度で点滴静注

電解質の補正と水分補給

強制利尿や血液浄化法で排泄促進される 1)

血液透析はアルコールの除去に有効 5)

特異的治療法：4-メチルピラゾールの投与(日本では医薬品として未発売) 4)

5. 確認事項

1) きのこの種類、形：採取場所、種類、形態など

2) 摂取時間：何時間経過しているか

- 3) 摂取量と状態 : 摂取量、個数を確認
- 4) アルコールの摂取 : 量と時間(奈良漬の摂取、アルコール含有品の使用を含む)
- 5) 患者の状態 : どの様な症状があるか、症状の出現時間

6. 情報提供時の要点

一般市民に対して

コプリン群のきのこをアルコールの飲用前後に食べた場合は、催吐させ、
症状があれば受診を指示

医療機関に対して

必要であれば催吐、胃洗浄を行う。活性炭と下剤の投与(有効性は証明されて
いない)

ジスルフィラム(アンタビユース)様作用に対する対症療法を行う

7. 体内動態

コプリンの作用はきのこを摂食後、5日間は発現する

症状はアルコール摂取後、20分~2時間後より生じる 4)

8. 中毒学的薬理作用

2)4)

- 1) ジスルフィラム(アンタビユース)様作用: コプリンは肝臓で加水分解を受け、
1-アミノシクロプロパノールに代謝される。これがモリブデンとキレート結合
してアルデヒド脱水素酵素の活性を阻害する。そのためアルデヒドが蓄積し、
中毒症状が発現する
- 2) ドパミン- -ヒドロキシラーゼ活性阻害: それに起因する血圧低下、頻脈も
みられる

9. 治療上の注意点

1)4)

- 1) アルコールを飲む4~5日前にきのこを摂取していると、症状が発現する。
そのため、きのこが原因であることが判明しにくいので注意が必要である
- 2) コプリン群による中毒の場合、48~72時間はエチルアルコールを含むエリキ
シル、チンキ、エキス剤等による治療は避ける。トコンシロップはアルコー
ルを含むので使用を避ける。
- 3) 4-メチルピラゾールはアルコールからアルデヒドへの代謝を阻害する。
5mg/kgを生食にいれて2~3分間で静注する
(ただし、日本では市販製剤はない)

10. 該当するきのこ

・中毒を起こす日本のきのこ 6)7)

学名	和名	別名
<i>Coprinus atramentarius</i>	ヒトヨタケ	マグソツタケ
<i>Clitocybe clavipes</i>	ホテイシメジ	ジョウゴダケ、ヨイッタオシ

・中毒を起こす疑いがある、または症状はあったが毒成分は未検出のきのこ 8)

学名	和名	別名
<i>Pholiota squarrosa</i>	スギタケ	
<i>Boletus luridus</i>	ウラベニイロガワリ	

11. 参考文献

- 1) 山下衛:診断が困難な食中毒 毒きのこ中毒.日本医師会雑誌 1988;99:1901-1908.
- 2) 中毒百科(1991)
- 3) 戸崎洋子:〔中毒 新しい治療指針〕キノコ.救急医学 1988;12:1551-1559.
- 4) Poisindex(1992)
- 5) Medical Toxicology(1988)
- 6) 原色きのこ(1987)
- 7) 日本のきのこ(1988)
- 8) 2章 コプリン群.山下衛,古川久彦,きのこ中毒.共立出版,1993,pp91-101.

12.作成日

19940525 Ver.1.00 新規作成

20151201 Ver.1.02 部分改訂

ID M70094_0102_2